

せん。どこかに体の痛みがある人は、ずれた状態で耐えているわけです。膝痛も腰痛もそうです。今の医学では膝が痛ければ膝をいじります。足の甲が痛ければ足の甲のレントゲンを撮って治療がスタートします。重心のずれを診ることはまずしません。そこからボタンの掛け違いが始まるのです。症状だけを診ても治りません。その原因が口の中にあることも多く、肩こりにしても腰痛も膝の痛みも、重心のずれが原因であることがあるのです。

**Q** アトピーが詰め物を変えると治るとか。

**A** 原因不明だからアトピーというんですが、医者は口の中を見ないので、原因不明に決まっているんです。口の中に金属や化学物質があれば、とけるとかして体に入って来て、アレルギー反応を起こす可能性があります。アレルギーが歯科材料からずっと出続ける。それを取れば治るのは当たり前です。原因がわかればアトピー性ではなく、歯科金属アレルギー皮膚炎とか病名がつくんです。それも人によってはプラスチックが原因のこともあります。その人にあった詰め物にしないとまずいのです。

またインプラントにはチタンが使われますが、チタンなどの歯科材料は、電磁波を集めるアンテナにもなるので、金属アレルギーだけではなく、電磁波過敏症を起こすこともあります。

**Q** 寝たきり老人が入れ歯をすると歩けるといのは。

**A** 寝たきりと言うけれど、筋力があっても、ふらついていたら立てないですよ。でも重心が乗っていれば多少筋力が衰えていても立てることもあります。歯もなく、入れ歯もないので重い頭を顎が支えきれないために、体がふらつき寝たきりになる人もいます。でも重心がのっていればさっと歩けます。入れ歯の意義は咀嚼してご飯を食べることよりも、体のバランスを取るほうが重要ですね。

入れ歯を装着して体のバランスをとってから、リハビリをする必要があります。重心が狂っている状態でいくらリハビリをしても、筋力をつくけれど、いつまでたってもふらついて立てないことが多いです。

**Q** 歯周病も全身に関係するそうですね。

**A** 歯周病は歯を失う最大の原因ですが、歯周病菌が血管に入ると動脈硬化を引き起こし、結果的に心臓病や脳梗塞になることも、昔からわかっていたことでした。でも医科歯科の分離が、その解明や対策を送らせる原因となりました。明治維新は脱亜入欧で、西洋のものはなんでもよくて、アジアのものはダメと否定しました。東洋医学は全身を診て治すものだったのに、西洋医学が入ってきて、局所の治療に専念するようにしたのが、そもそもの失敗です。また西洋医学は戦争のために発達しました。国が戦争に勝つために、負傷した兵士を治すのが外科ですよ。また結核の対策も大きな課題でした。つまり兵士をいかに使いこなすか。銃創を受けた兵士を外科手術やその後の感染防止によって、いかに機能回復させるかが、課題でした。西洋医学では症状を呈している局所を治療することに重点が置かれます。だから、全身のバランスを重視するような医学は取り残され、局所を診る医学が主流になりました。

でも近年アメリカで、ホリスティック医療が増えてしていると聞きます。西洋医学ではだれが来院しても同じ病気に対しては同じ治療をすることが多いのです。東洋医学ならその人の体質など(証とも言います)を考慮して、オーダーメイドの治療を心掛けますが、西洋医学ではそうした考え方は乏しいと言えます。

**Q** 自分の噛み合わせの具合を簡単に知る方法を教えてください。

**A** 薄い紙を噛んでみて、バランスが崩れるかどうか試するのが早いです。ティッシュとかを位置を変えて噛んでみて、誰かに腰の辺りを押してもらって、動かなければいいけど、すぐに動く

ようだとバランスが崩れています。逆に噛み合わせが低い所に当たるとバランスがよくなることもあります。変わらなければバランスが取れています。

**Q** 日々のやりがいとこれからの目標を教えてください。

**A** 毎日やりがいを感じています。極端な話、何十年も苦しんだ症状がその場で治る。何十年ぶりに治りましたと言われたらうれしいです(YouTube動画:癒しフェア東京2013 腰痛治療、<http://youtu.be/3W4RcQP1huk>)。それが日常的に起こります。だから患者さんは口コミが多いですよ。

私の目標は、医科歯科二元論を一元論に戻すことです。検査して、投薬や注射ばかりしていても根本治療になりません。対症療法ばかりでは医療費は増えるばかりです。歯科でも虫歯治療など局所治療も多々存在しますが、それだけで終わってはいけません。全身との調和を図る努力がいます。それがいきなり無理なら医科と歯科の協力から始めて、最終的には医学部ひとつにするような形にしたい。歯のことを知らない医者がいるから、医科と歯科の谷間に陥った患者が救えないのです。根本原因が体のバランスの歪みであることを誰も気づかない。局所ばかりレントゲン撮って検査して注射していたら治りません。

歯科でも局所治療はよく行われますが、局所で終わりではないということです。木も森も見えないといけない。それが歯科からの医療革命なのです。



取材中、実際に記者の噛み合わせをチェックしてもらった。患者の立姿を見ただけで、身体バランスのどこが悪いかが、噛み合わせの不具合がわかるという。